

令和7年度事業報告（第2期）

（2024.7.1～2025.6.30）



特定非営利活動法人リテックス

定款に定められた事業についての報告

(1) ごみ軽減化に向けた普及啓発事業

今期は中古衣料の問題点について、計10回の講演を実施し延べ187人が参加しました。中古衣料の現状と環境・社会問題への影響を説明し、回収袋の購入につなげ衣料回収に協力いただきました。

また、寺子屋に参加する子供たちにも同様の内容を分かりやすく伝え、身近な取り組みの必要性を説明しました。

日	主催	イベント名	場所	テーマ	参加数
6/3	コープ委員会	ちくもん講座	コープ甲陽園会議室	中古衣料の現状について	17
6/3	コープ委員会	ちくもん講座	コープ西宮	中古衣料の現状について	12
6/20	株式会社リリーフ	社内研修会	株式会社リリーフ本社	寺子屋リテックスの活動について	9
7/5	樋ノ口小学校コミュニティス	樋ノ口コミュニティカフェ	樋ノ口小学校	NPO リテックスについて	20
9/5	食彩館コープ委員会	ちくもん講座	コープ北口食彩館	中古衣料の現状について	9
12/7	アクティブ王寺	アクティブ王寺教育講演会	いずみスクエア	学力格差の現状について	22
2/14	西宮市社会福祉協議会	みやっこまなびラボ	西宮市民会館	寺子屋リテックスの活動について	34
3/6	西宮市生涯学習企画課	西宮市職員研修	西宮市役所	こどもの食堂の現状について	28
4/20	コープこうべ第2地区本部	つどい場2周年記念	つどい場COKO	寺子屋リテックスの活動について	26
6/2	芦屋コープ委員会	ちくもん講座	コープデイズ芦屋	中古衣料の現状について	10



講演の様子

(2) 中古衣料等の回収・再資源化に向けた事業

今期の活動において回収できた中古衣料の総重量は、4,757 kgでした。このうち、回収袋を購入して郵送されたものは37袋、総重量560.7 kg、一袋平均15 kgでした。その他は、各方面から直接または知人をおして寄付されたものや、寺子屋に子供たちが持参した物でした。今期は数量確保のため、近隣で開催されたバザーの残品を引き取りに行きました。この引き取りでは中古衣料だけではなく、食器、雑貨品、本、段ボールなどほぼ全てを持ち帰ることで、バザー主催者が残品処分に苦慮されていたことへの負担軽減にも貢献できました。食器や雑貨品については、遺品整理会社がい取りしてくれる仕組みができ、三者にメリットが生じる関係が築けました。これまでコロナ禍で中止されていたバザーやフリーマーケットが再開されており、大量回収が可能な引き取りについて周知を図り、関係機関と協力しながら活動を継続して行きたいと思っています。



寺子屋での回収



店前に回収袋を設置



バザー会場での衣料



バザー会場での雑貨品



持ち帰った雑貨品



雑貨品の買取

(3) 地域福祉特に子供たちの健全育成を進める事業

西宮市のコープこうべ甲東園店裏ある集会室 CO・KO で始めた寺子屋と親子食堂は 2 年目になりました。様々な事情により塾に通えない子供たちの居場所として、小中学生 38 名が登録し、28 名のボランティアが学習や調理をサポートしています。毎週金曜日 17 時から学習、19 時から食事を行い、今年はクリスマス会、書初め、イースターや工場見学などのイベントも実施しました。

食事は担当を週ごとに分担し、第 1 週目は管理栄養士、第 2 週目は「ぼこた」、第 3 週目は「ふれあいうさぎ食堂」、第 4 週目はカレーの日とし負担を軽減しました。毎回 40 名前後の食事の準備から片付けまでを数名の調理スタッフがボランティアで行ってくれています。

食材費についてはやはり高騰しており、地域の農家や企業、卸売市場、社協など多方面からの協力や寄付を受けています。特に西宮市子供家庭支援課の補助金は大きく、食材費の大半を賄ってもらっています。また、NPO 繋がりでは宝塚 NPO センターから乳製品やパンの提供を受けるなど協力の輪が広まってきていると感じます。

今年度は 49 回開催し、のべ 1,554 人が参加、平均 31 人でした。総食材費は 608,449 円（一人平均 391 円）で昨年度の一人平均は 317 円であり、やはり増加しました。



学習風景



書き始め



工場見学



イースターでの外国人講師



調理風景



農家さんからの野菜

(4) 雇用を拡大する事業

雇用の拡大に寄与する取り組みとして、地域の福祉事業団と連携し B 型就労者向けの仕事を提供して障害者の雇用拡大を目指しました。高島産業の全面協力の下、裁断機械の無償貸与や現地指導を行いウエス制作の軽作業を依頼しています。当初は 4 事業所が参加してくれたものの継続するのが難しく、現在はワークスペース満太郎事業所のみが作業をしてくれています。満太郎事業所における、この一年間のウエス生産量は 2,971.6kg でした。来年度は新たな事業所との契約も決まり、また伊丹市の協力も見込まれているので、雇用拡大につなげていきたいと思っています。今後は A 型就労者による工場での軽作業も進めていきたいと思っており、障害者雇用に寄与できればと思っています。



満太郎での作業風景



満太郎での裁断風景



ウエスの納品

まとめ

特定非営利法人リテックスは、第 2 期の活動を終了し、初めて一年間をとおして事業を実施しました。この一年、活動理念への理解が広まり、協力者やボランティアスタッフ、食材などの支援が増えてきました。来期にはコープともしび財団から助成金の支給も決まり、啓発活動や子供支援ために活用したいと思っています。

子供たちの支援活動における寺子屋と親子食堂には、毎回 40 名前後が参加してくれていますが、スタッフやスペースを考えると、この人数がマックスと感じており、今以上に参加者を著しく増やすような宣伝はせず、地道に継続できる活動として粛々と行いたいと思っています。

雇用の拡大については、B 型支援の為に仕事を提供していますが、担当者の熱意に左右されるところが大きく、継続してもらうのが難しいところがあります。今後は行政の協力を得ながら、ウエス作製の仕事を請け負ってくれる事業所を増やしていきたいと思っています。また、今後は B 型支援者だけでなく、A 型支援者に現場に来て軽作業を行ってもらう仕組みにも取り組んでいきます。

リテックスの本来の目的である中古衣料に関する問題意識の普及とともに、中古衣料の回収を促進する仕組みの導入を検討しています。この取り組みには、自治体や公共性の高い企業の協力が不可欠であり、趣旨を説明し協力体制を構築できたらと思っています。

以上第 2 期の事業報告と今後の取り組みについて記させていただきました。今期もご協力いただいた多くの皆様へ感謝すると共に、今後も更なるご支援の程宜しく願いいたします。